

**the 23rd.**

**fukuoka**

**prefecture/**

**architectural**

**award for**

**artistic**

**urban design**

**第23回**

**福岡県**

**美しいまちづくり**

**建築賞**



the 23rd.

fukuoka

prefecture/

architectural

award for

artistic

urban design

## 総評

本年度の応募点数は、住宅の部35点、一般建築の部29点、合計64点であった。地域別にみると、福岡市を含む福岡地域から40点、北九州地域から7点、筑豊地域から4点、筑後地域から13点となっている。一昨年の応募総数88点や昨年の81点と比べるとやや低迷した。近年の建築環境を取り巻く厳しさが想像される。

受賞の選考は10名の委員の合議で行われた。今回は応募書類から第一次選考された8作品について、2日間の現地審査を実施し、県知事表彰の大賞および優秀賞、(財)福岡県建築住宅センター理事長表彰の奨励賞を選出した。大賞、優秀賞は、住宅の部と一般建築の部で各1作品、奨励賞は住宅の部から2作品を選んでいる。

「住宅の部」の現地審査では、いずれの受賞作品からも、建て主、設計者、施工者の相互の信頼から生まれた作品であることが十分に伝わってきた。建て主のみなさんが、入居後の住み心地にとっても満足されていることも印象に残る。

大賞受賞作品「豊前の家」は、透明ガラス屋根が架けられた土間を、都市の路地に見立てた空間構成が面白く、こどもの想像力を促す生活展開が期待できる作品である。優秀賞受賞作品「雷山の家」は、遠くに見晴らす可也山を、上階のリビングルームに取り込む巧みな建築的工夫など、隅々までモダンデザインが行き届いた作品である。奨励賞受賞作品「桜坂の集合住宅」は、敷地境界に保存樹木のクスノキと里道が残る古い土地環境を、建築計画に最大限に生かすことで、地域の景観形成に寄与している作品である。同じく奨励賞受賞作品「イチマイノイエ」は、一枚の長壁をクランク道状に折り込んだ時に生じる、内と外、表と裏、右と左の関係を、建築の空間に転換する独創的な着想が面白く、個性的な生活スタイルが予想される作品である。

「一般建築の部」では、現地審査4作品のなかから2作品が大賞と優秀賞の受賞となった。両作品とも、建築計画における所与の条件に余すところなく対応するとともに、周辺の環境や景観と調和する新規なデザインの提案に優れた作品である。

大賞受賞作品「下川歯科医院」は、小さな建築であることを巧みに生かして、装飾性を帯びた光とあかりのランドマークを意図した設計が、見事に結実している作品である。優秀賞受賞作品「福岡大学附属大濠中学校・高等学校」は、最新設備を備えた教育施設であることはもとより、大濠公園の景観秩序の保全的発展を図るとともに、環境の時代にふさわしく、CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)の高ランクに適合させるなどの環境配慮に意欲的な作品である。

福岡県美しいまちづくり建築賞選考委員会委員長 工藤卓

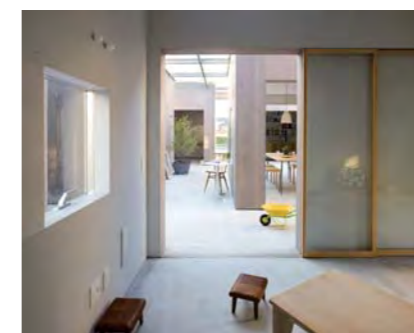
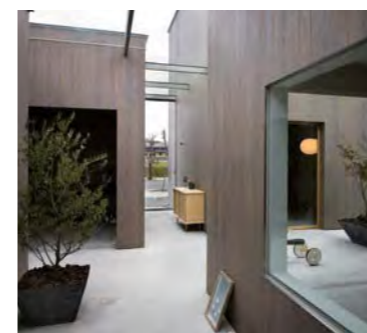
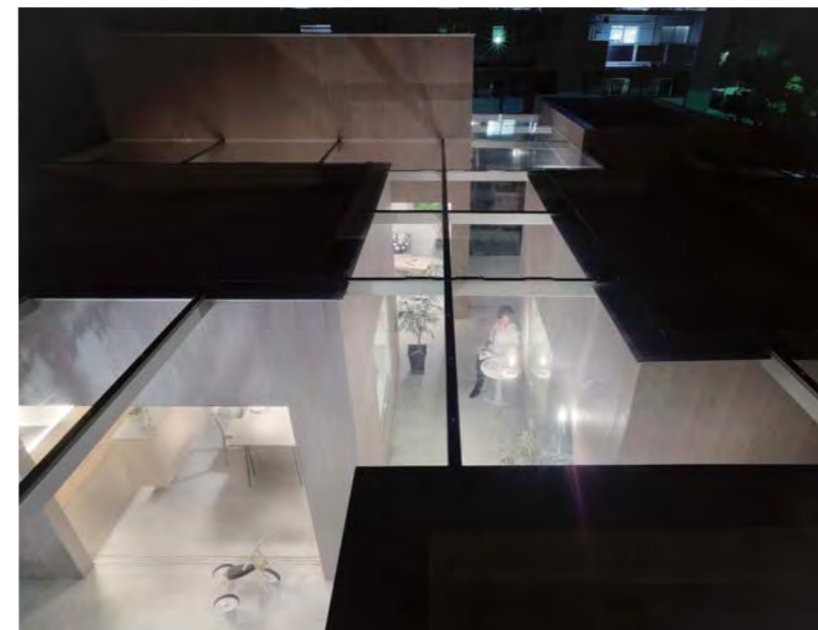


# 大賞

住宅の部

豊前の家

所在地：豊前市



## 設計趣旨

家と家との狭い路地や庭の先、空き地といった場所は、子供達にとって格好の遊び場であった。遊ぶために与えられた公園や庭ではなく、自然と遊び場になっていくような路地を持つ住宅。この住宅では、部屋という単位を建築という単位に置き換えることで、一つの住宅でありながらいくつもの建築であるような状態を設計した。

子供達が、積極的に外部空間を使いこなすように、街路(中庭)が生活の一部として使われ、内部の行為が外部に参加し、内外の関係が等価になる。都市の中庭であるような街路が、住宅と親密な関係を築いていく先にこれからの建築の姿を想像し、これまでの内部と外部の関係を越えた新たな関係性に出会えたのではないだろうか。

## 講評

6つの独立した部屋の間を通る土間に、透明ガラスの屋根を架けて空の景色を取り込む実験的な空間に驚く。建築鑑賞を趣味とする建て主の希望が設計者の独創的な提案と重なり合って、一般的な住まいの生活スタイルを大胆に切り替える空間構成となっている。暑さ寒さについては多少の非合理はあるのだけれど、住宅という器を、家族で棲むというところからもう一度考えてみようとする意欲が感じられる。

この土間では、太陽の下でくつろぎ、草花を育て、近所のこどもたちと一緒に走り回り、夜には銀河の星をみながら絵本を読むなど、家族の想像力にあふれる使い方が期待されている。なるほど、大空が見える生活は、こどもたちの感性を豊かに育み、見守る家族とのふれ合いが生まれそうである。

一方、囲いの無い前庭の後方に、凹凸のある箱形住戸が並ぶ様相は、周囲の新興住宅地の風景からは閉じたように見えている。いずれ前庭の樹木が大きく枝を広げたとき、前庭はガラス屋根のない土間となって内部の土間とつながり、さらには街区に開放される魅力的な景観を創るだろう。

日々成長するこどもたちが、この家のおもしろさを、ともだちや周囲に着実に伝え広めていくに違いない。

設計者 suppose design office  
谷尻誠  
〒730-0812  
広島市中区加古町13-2-3F  
TEL 082-247-1152  
<http://www.suppose.jp/>

建築主 個人  
施工者 株式会社大栄工業 代表取締役 原田春男  
用途 一戸建住宅  
構造規模 木造 1階建



# 大賞

一般建築の部

下川歯科医院

所在地：筑後市

4 | 5



## 設計趣旨

ロードサイドショップが並ぶ郊外の風景の中で、看板だけでなく、建物全体として存在をアピールしている。地域の伝統工芸である和紙の透け柄のような開口のデザインが作る風景は、周辺環境に溶け込み、歯科医院に新しいアイデンティティーを与えている。平面は中央に諸機能を集約した口の字型をし、周りに断片化した壁をずらしながら配置することで、内外が一体となった空間を作っている。薄い鉄板の外壁にガラスを象嵌した葉っぱのシルエットは、幾重にも重なり、室内を包み込む。患者に緊張や不安感を煽りかちな歯科医院で、精神を落ち着け、リラックスできる環境をつくることを考えた。

## 講評

白い表層と点景植栽の緑が重なり合うこの建築は、記号性に優れたランドマークとなってその存在を強調している。一般的には巨大看板による過剰なアピールが、地域の景観を乱雑しているなかで、あえて建築自体を広告看板代わりにデザインするという発想が清々しい。

中央に諸機能室を集約してその周囲を光の回廊空間とした室内計画は、この建築全体をひとときわ明るく軽やかにしている。平面的な鉄板素材を、四周に建て並べて造ったスリット開口は、昼の自然光と夜のあかりを入れ替える。差し込む光は室内の壁面に静かなグラデーションを映し出し、室内から漏れる照明のあかりは建築のシルエットを浮かばせる。加えて、木の葉の模様を彫りぬいた幾つものアクセント窓を透過する光とあかりは、内外の白い壁面上を乱舞して楽しい。

形態を持たない光とあかりで装飾する「この建築なら跡継ぎしたいな」と後継者に言われたという建て主の感想は、素敵な建築評価として受け取られよう。



設計者 末光弘と末光陽子 / 一級建築士事務所SUEP.  
東京事務所  
〒158-0094 東京都世田谷区玉川4-21-1-203  
TEL 03-3709-5915  
福岡事務所  
〒810-0001 福岡市中央区天神4-8-2-3F  
TEL 092-600-8653  
URL <http://www.suep.jp>

建築主 下川歯科医院 院長 下川聖人  
施工者 株式会社大敷組 代表取締役社長 石井正  
用途 診療所  
構造規模 S造一部コンクリートブロック造 1階建



## 優秀賞

### 住宅の部

雷山の家

所在地：糸島市

## 設計趣旨

雷山の家は、福岡県の西部、雷山の裾野に開発された別荘地内に位置している。周辺は緑豊かな自然環境に恵まれた場所である。

敷地は緩やかな斜面で北西に古代伊都国の肥沃な平野と遠景に糸島半島のシンボル、可也山を望むことができる。

建物は、コンクリート、木、鉄の素材を

単純に構成し、軒高を極力低くおさえたシンプルな片流れ屋根の形態である。内部は屋根と同じ勾配の天井と、床と壁がVRLコニーまで連続し周囲の風景を切り取る。

この建築は、自然と一体となる空間体験ができる場所であり、四季折々の、また日々刻々と変化する周辺の景観をとり込むことにより、豊かな生活の舞台となることが期待されている。



## 講評

1階には打ち放しコンクリートを、2階には鉄骨と木材を使用するなど、それぞれの素材特性を生かした混構造によるモダンデザインが冴えている。なかでも、ふんだんに用いた無垢のチーク材の施工性はすばらしく、素材が作り出す格調がデンマーク家具の名品と相まって、空間の全体を上質に演出している。

山の傾斜を巧みに利用して、張り出しのある2階にはカーポートから水平ブリッジで渡り、1階には植栽のある階段路を登るという上下2ヶ所からのアプローチ設定が、この建築に土地への着地感と、軽快な浮遊感を与えている。地面から浮かんだ感覚は、リビングルームからの遠景となる可也山を俯角の借景に生けどるために、近景の介入を避けて長く突き出したデッキと袖壁と屋根による額縁効果によって増強されている。緑と樹林に囲まれ、恵まれた眺望

を持つ敷地固有の景観条件から得られる美的満足感を、素材と形と寸法の操作で充実させた、このさりげないデザインが好ましい。

**設計者** 有限会社田中俊彰設計室  
代表 田中俊彰  
〒810-0024  
福岡市中央区桜坂1丁目8-6  
TEL 092-403-3987  
URL <http://www.japan-architects.com/t-tanaka/>

**建築主** 個人  
**施工者** 川原工務店 代表 川原喜代司  
**用途** 一戸建住宅  
**構造規模** RC造一部鉄骨・木造 2階建

## 優秀賞

### 一般建築の部

福岡大学附属大濠中学校・高等学校

所在地：福岡市中央区

## 設計趣旨

福岡市の中心に位置する「大濠の地」。福岡城跡、鴻臚館跡、美術館、武道館、大濠公園等に面する福岡市の歴史、風土、文化を象徴する場所である。この地に開校以来、歴史を築き上げてきた学校の校舎・体育館の建替計画であり、福岡大学創立75周年記念事業の基幹事業として、平成22年3月竣工を迎えた。

計画のテーマを「大濠の門」として提案し、正面の外観は前面の自然豊かな大濠公園との一体感を開放的に演出し、校内には自然の要素である水、緑、石をふんだんに配する広場、中庭を設け周辺環境との調和を図っている。また、エコスクールの実現を目指し、環境配慮型設計を行い、建物を対象とした環境教育が行えることを目標としている。



## 講評

大門の構えを校舎の象徴とする意匠から、環境へのメッセージを込めた樹木植栽まで、建築計画の見どころは多い。特に6階多目的大教室における、北側の大濠公園と南側スカイテラスを貫く眺望を軸とした可変空間の設定は、立地する景観条件を最大限に活かす工夫に満ちている。ここで空間体験は、心地よい原風景となつて、生徒たちの思い出に残るだろう。

中高一貫の学習動線を大きなボリュームの棟に重ねた建築的評価は、今後の教育課程の進行に待たれるものの、CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)のA評価達成やエコスクール活動の拠点場作りなど、環境配慮型教育施設としてのまとまりは見事である。建築の表層を彩る色彩トーンを、周辺建築のトーンに合わせた景観的配慮も好感が持てる。

一方、大濠公園の水際から眺める7階建て

幅広校舎のシルエットは、森の樹木と武道館の屋根を超えた巨大な構築物に見える。その反面、水面に映り込むあかりの夜景は、都市のランドマークとして美しい。都市の歴史的な景観秩序の中で、大きな規模になりがちな建築をどのように細分化したスケールで扱うかは、極めて難しい個別の建築的課題である。

**設計者** 株式会社日本設計 九州支社  
執行役員支社長 許斐信三  
〒810-0001  
福岡市中央区天神1丁目13-24  
TEL 092-712-0883  
URL <http://www.nihonsekkei.co.jp/index.html>

**建築主** 学校法人福岡大学  
理事長 鎌田迪貞  
**施工者** 鹿島建設株式会社九州支店  
常務執行役員支店長 増永修平  
**用途** 中学校・高等学校  
**構造規模** SRC造一部5造 7階建



## 奨励賞

### 住宅の部

桜坂の集合住宅

所在地：福岡市中央区

## 設計趣旨

この建築は大きな楠木の下に佇む集合住宅である。敷地は閑静な住宅地にあり、高低差約8mの傾斜地にある。敷地南東端に大きな楠木(保存樹)が立っている。この楠木の保全と、敷地高低差の活用、そして敷地南に接する里道を活かした計画が大きなテーマであった。建物の形態は周囲の住環境を配慮し、楠木の下に水平に広がる

低層の建築とした。高低差を利用して各用途を配置し、それぞれ独立のアプローチも確保した。里道と一体となった前庭や植栽帯を設け、通風や日照を確保。同時に里道の環境改善にも努力した。その甲斐あって、里道は利用者が増えたようだ。現在も大きな楠木が、この建築を優しく見守るように、昔のまま静かに鎮座している。



## 奨励賞

### 住宅の部

イチマイノイエ

所在地：遠賀郡岡垣町

## 設計趣旨

敷地は遠賀郡岡垣町に位置する。家族構成は夫婦+子供2人。施主は、次世代に土地を残すのではなく、「土地の広さを生かした小さな家」を望んだ。周辺のクランクしている路地を歩くと、全体像が見えないが故に、様々なスケール感や風景が混在し、小さな町であるが多様な広がりを感じた。そのような街並みに呼応する形で、この

住宅も一枚の壁が敷地内をクランクしながら伸びていく構成とした。ひとつの部屋がひとつの庭を持ち、それらが入れ替わり、屋根の勾配も交互となる。駐車場を除く室内面積は約28坪と小さいが、敷地内に縦横無尽に伸びるこの住宅を訪れると、周辺環境と同じように、多種多様なスケール感や風景を体験することができる。



## 講評

指定保存樹と里道を保全する計画的配慮が、この建築の価値を高めている。敷地の西側を貫通した都市計画道路は、この地域の古い景観を大きく変貌させた。しかしこの建築計画では、敷地南東端に残されたクスノキの大樹と里道のある風景を、建築点景の主要な要素として取り込むとともに、古い土地の雰囲気を残す街角に再生することを目標としている。建築をつくることと、歴史的文化的景観を守り続けることは、同じ価値を持つという好例である。

屋根に降り積もる落葉対策を、<sup>ひさし</sup>庇の軒先に横樋を付けずに工夫した設計も見応えがある。深く長い庇は、<sup>よことし</sup>リビングルームから大樹と空を眺める水平額縁となつて、伝統的な日本家屋の軒下空間を彷彿させる趣がある。

総じてこの建築は、里道に沿った敷地の

高低差をうまく利用して、建て主住宅、賃貸集合住宅、貸店舗を、コンパクトに階段状に集合させたことが功を奏している。新しい建築と保全すべき地域景観とが、望ましい形で調和している作品である。

設計者 伊藤建築都市設計室 伊藤隆宏  
〒810-0024  
福岡市中央区桜坂1丁目8-3-001B  
TEL 092-715-6001  
URL <http://www.i-aa.net/>

建築主 個人  
株式会社佐伯建設福岡支社  
施工者 支社長 柳野周史  
用途 集合住宅および店舗  
構造規模 鉄筋コンクリート造 地上2階地下1階



## 講評

閑静な郊外住宅地に造られた石籠の「ガビオン」<sup>ようへき</sup>擁壁に続いてクランク状に奥深く伸びる荒いモルタル壁の外観には、異形の新鮮さがある。7軒もの隣家に囲まれた丘状の敷地の上で、庭と建物がジグザグに反復する様相は、隣人同士がコミュニティをつくる小さな町並みの路地裏にも見える。

平面計画では、一枚の長壁を折り込んだ真ん中に廊下道を貫通させることによって、内と外、表と裏、右と左の関係が曖昧になる不思議な空間を造り出している。外壁と室内壁が同じモルタル櫛引で仕上げられていることも、内部と外部を連続させる興味深い新手の手法である。四角い高窓が切り取る空の風景も印象的だ。ここから差し込む光は形の定まらない濃淡をつくり、風は低窓を自在に通抜けける。

子どものいる場を閉じた空間に固定することなく、常に家族とつながりを持てる自

在な使い方に扱けたのも好感が持てる。ガラス戸を開放して、室内とテツキと庭をひとつにつなぎ、子どもたちが楽しげに走り回る姿が目に見え、極めて個性的な家族生活が期待できる愉快的な住宅である。

設計者 矢作昌生  
〒802-0023  
北九州市小倉北区下富野2丁目8-7  
TEL 093-531-8485  
URL <http://www.myahagi.com/>

建築主 個人  
株式会社イコーハウス  
施工者 代表取締役 井藤俊二  
用途 一戸建住宅  
構造規模 木造 1階建

